

今日から大齋節に入ります。聖公会はこの呼び方を続けていますが、以前この呼び方をしていた、他の教派も、最近では、カトリックや他のプロテスタント教会にあわせて、四旬節と呼ぶのが一般的になってきました。

四旬節とは、40日という意味です。1ヶ月を上旬、中旬、下旬と三つに分けるのは、最初の10日間。真ん中の10日間、そして最後の10日間という意味ですね。今年の大齋節は2月26日水曜日から、4月11日土曜日までで、数えたら46日あります。しかし、日曜日は、イエス様の復活の日だから、ということで、期間中の6回の日曜日は数えないで、40日ということになったわけです。

他の教派の人々と話す時「大齋節」と言っても、わかってもらえないので、他と同様に「四旬節」と言ったり「レント」と言う方がいいのではないかと、思っています。しかし聖公会として、どうして「大齋節」という言葉を使うのか、説明の用意をすることも、意味があるかもしれません。

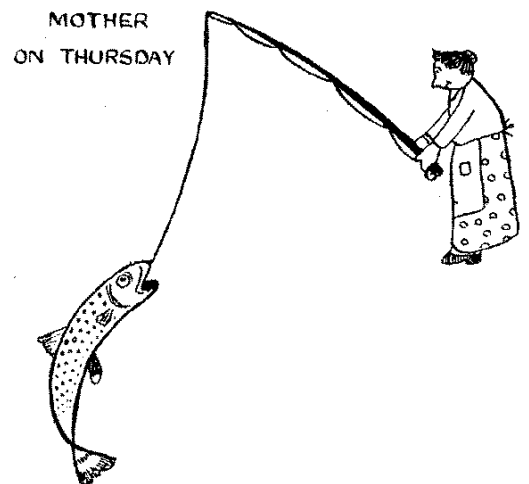
皆さんは、聖公会手帳や教会暦・日課表などに、「齋日」というのが、毎週金曜日についているのをご存知でしょうか。最初の方のA年という日曜日を中心にしたものにはありませんが、後半の第1年という、降臨節第1主日から、毎日読む聖書の箇所が書かれているカレンダーの方は、毎週金曜日には「齋日」という字が書かれています。書かれていないのはクリスマスとイースターの後の白い祭色の時の金曜日だけです。「齋日」とは、「祭に自らの心身を備える事を定められている日。」という説明が一般にはされています。

キリスト教ではイエス様の復活を祝う日曜日のための備えをするのが、毎週金曜日で、その時には贅沢はしない、ということで、欧米社会では、この日は肉の代わりに魚を食べる、ということになっていて、古い英国の本の挿絵を見ると、金曜日の食事のために、お母さんは木曜日には魚を手に入れる、という面白い漫画が描かれています。

この齋日が40日も続くということで、聖公会では『大齋節』と呼んでいるわけです。

さて、大齋始日は、毎年マタイによる福音書の中に書かれた、施しと祈りと断食をする時の心得のところを読むことになっていますので、今も私はそれを読みました。これを読んでいると、何度も同じ言葉が繰り返されるので、みなさんもよく覚えておられるでしょう。

人に見せるために、施しや祈りや断食などの善行を行ったのでは、彼らは既に、人々から報いを受けてしまっている。人に気づかれないように行うことで、隠れたことを見ておられるあなたの父が報いてくださる、というお話です。



GETS FISH FOR HER FAMILY;
FOR THE SECOND PRECEPT IS
THAT WE SHOULD NOT EAT MEAT ON FRIDAYS.

そして、これらのまとめとして、地上に富を積んではならない。富は天に積みなさい。ということになります。つまり、施しや祈りや断食が、人々からほめられても、そんなこの世の富は、腐ってなくなってしまう。そんな、人からの評判を良くしようとするのではなく、神様からほめていただけるように努力しなさい。そうすれば天に積まれた富は、なくなることがない、と教えるわけです。

もちろん、神様のために良いことを行うことが、結果的には、人々からも賞賛されることになったら、それ自体は悪くはありません。しかし、人間は弱いので、人々から褒められると、だんだん神様のために善行を行うのではなく、人々から褒められたいために、それをするようになってしまうのです。

そのことを良く知っている、マタイによる福音書を編集した人は、人目につかないようにして、善行をしなさい、と勧めるわけですね。これらの善行を行う行動の根拠と言いましょか、大切なことは、悔い改め、ということです。今まで間違った方向に歩いていた者が、立ち止まり、正しい方向に向きなおして、歩みだすことを悔い改めと言います。

間違っていたことを、ただ反省しても、それによって方向を変えて歩みだす行動がなければ、同じ間違いを続けることになりやすいのです。

さて、それでは、大斎節に何をするのか、ということですが、昔は、毎朝教会で聖餐式をして、その後、仕事や学校へ行ったような話を聞きました。しかし、それは現代では、通用するかどうか。現代の大斎節は、もっと別のことをすることを考えたらいいと思います。

人に見せびらかせるために善行をするのはよくないのですが、その結果、教会のクリスチャンは社会に向かって伝道することもなくなってしまっているのではないか、ということに気付くべきでしょう。

5年前、宮崎の総会資料にお母さんが魚を釣っている絵を入れたのは、金曜日のために魚を手に入れるためではなく、私たちが人をとる漁師になって、人々に福音を伝え、みんながキリストの弟子として歩むように、キリストに従う仲間を増やすためだ、ということだと思えます。

どうも、今日の福音書は、私たちが社会から離れて祈ったり、隠れた善行をすることばかり強調していますが、私たちはこの大斎節中、そのような生き方から方向を変えて、人々に向かって働きかける、そのような生き方に変えることが必要のように私には思えるのです。

それで、一つの聖書の箇所を取り上げたいと思っています。

『あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。』（マタイ5：16）

見せびらかすために善行をするではありませんが、社会に向かって信仰を証しすること。特に教会に人々を招いてキリストに触れる機会を作ってゆくことが、私たちには今年の大斎節中、目指してゆくことを目標にしたいと思えます。